

龍拈寺墓地における近世墓石の調査

久住 祐一郎

はじめに

墓石が日本の社会に幅広く浸透し、各地で膨大な数が建てられるようになったのは、十七世紀後半になってからである。その要因としては、直系家族で世代交代が進み「家名」「家産」「家業」を受け継いでいく家制度が成立したこと、儒教に基づく先祖祭祀が浸透したこと、幕府が寺請制度を設けたことで全ての人々がいずれかの寺院の檀家となったことなどが挙げられる。近世の「家」と墓石は不可分な関係にあった。

しかし、近年は少子高齢化や家族観の変化などにより、墓石の数は減少に向かっている。管理者がおらず無縁となった墓石は処分され、納骨堂への納骨や散骨・樹木葬といった墓石を必要としない葬送方法も選択されている。

その一方で、墓石をはじめとする近世の石造物に歴史資料としての価値を見出し、調査・研究対象とする流れは近年特に強まっている。各地に残る大名墓所には史跡に指定されている所も多く、調査・研究が進んでいるが、それ以外の武士や庶民の墓石についても多くの成果が報告され、近世社会を読み解く方法の一つとして注目されている。¹⁾

豊橋市においては、郷土史家の豊田珍比古が戦前に東三河の著名人を中心に一四二基の墓石の拓本を採取している。²⁾この中にはすでに現存していない墓石も含まれており、貴重な歴史資料となっている。戦後には豊橋市史編纂の過程で金石文の調査が実施され、一部の墓石が『豊橋市史 別巻』に収録された。しかし、これまで市内に残る近世墓石のまとまった調査は行われてこなかった。

本稿では、豊橋市内に現存する近世墓石群の事例として、龍拈寺墓地に残る近世墓石を悉皆調査した成果について報告する。

墓地の概要と調査内容

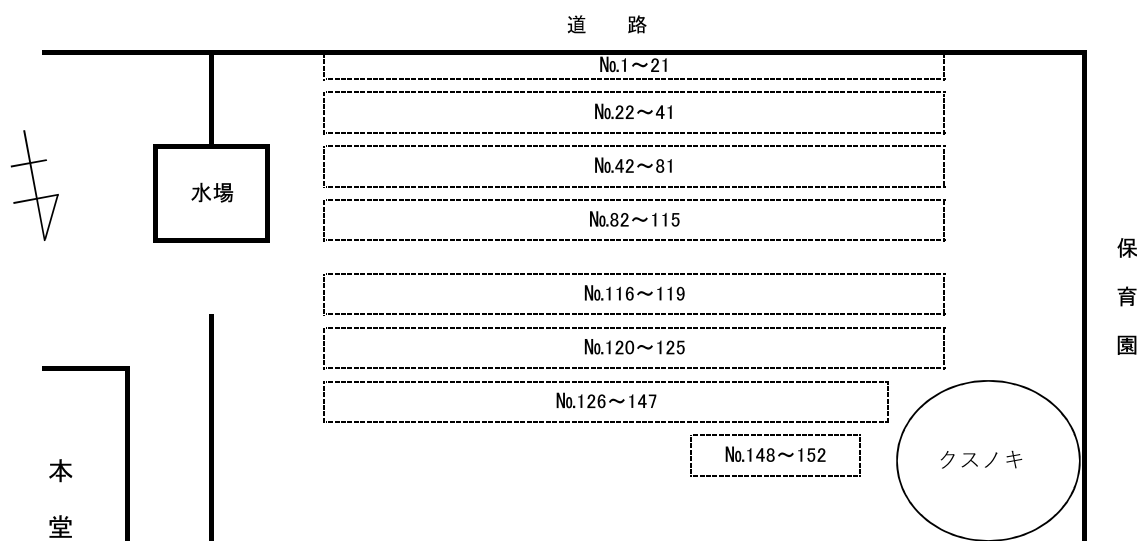
豊橋市新吉町にある吉田山龍拈寺は、十六世紀前半に創建された曹洞宗の寺院で、江戸時代には末寺三六・塔頭四を擁し、朱印高二五石を有した。悟真寺・神宮寺とともに吉田三ヶ寺に数えられ、吉田城下町を代表する寺院であった。そのため、檀家には吉田藩士が多く、家老をはじめとする重臣も当寺に葬られている。

今回調査するのは、龍拈寺本堂の西側に隣接する墓地である。近世墓石は、南端の塀沿いからクスノキ（とよはしの巨木・名木一〇〇選）の横までの区間にまばらに存在している。龍拈寺の墓地は、市街地にあることもあって近代以降幾度も変化しており、近世当時の景観は残していない。明治三十年代以降、近世墓石を整理処分して改葬し、新規に家族墓を建立した旧吉田藩士の家も十家ほど確認できる。

昭和二〇年六月の豊橋空襲により、龍拈寺は山門を除く伽藍を焼失した。墓地も被災して墓石が倒壊・散乱したため、現在でも欠損や亀裂がある墓石、高熱の影響を受けたとみられる墓石が散見される。さらに、戦後は戦災復興事業による区画整理が実施されたことで墓地の区域が変化した。その際、龍拈寺を含む豊橋市街の寺院にあった墓石約七〇〇基が向山霊苑へ移転している。³⁾

龍拈寺の先代住職夫人によれば、空襲で倒壊した墓石を整理するため十年間張り紙を出し、申し出があった墓石から直したため、もとは墓地の奥にあった旧吉田藩老家の墓石が入り口付近に移されるということも起きたという。本来、墓石は家ごとにまとまって建てられていたと思われるが、この非常事態における無秩序な移動により、一つの家の墓石が墓地内に点在するという状況が生まれた。分からなくなってしまう被葬者の特定も、今回の墓石調査の目的の一つである。

調査対象とした墓石は一四八基で、江戸時代に建てられたものが中心



【図】 龍拈寺墓地の概略図

だが、幕末期に活動した人物の墓石を中心に、明治時代に建てられたものも一部含まれている。調査開始当初に墓石に調査番号を1から152まで付したが、灯籠を含む四基は近世墓石ではないと判断して調査対象から外した。

今回の調査では、過去に調査実績がある一部の墓石などを除いて拓本の採取を基本とした。調査は筆者と松下佐知子（豊橋市美術館）の両名で令和三年から四年にかけて散発的に十四日間実施し、安田六左衛門研究会の協力も得た。時期は他の業務との兼ね合いで七月や十二月となり、屋外で暑さ寒さと戦いながらの過酷な調査になってしまった。採取した拓本はのべ四〇四枚に達した。

長年風雨に晒された墓石の中には、風化が進んだため拓本を採取しても刻まれた文字の判読が不可能なものも少なくなかった。そのため、過去帳や系図などの文献資料が残る家については、それらを照合して判別した。調査で作成した近世墓石のリストは稿末に掲載する。

近世墓石の形状

近世の墓石は時代や地域によって多様であり、同じ形状の墓石であっても研究者によって呼称が異なっている。今回は、龍拈寺墓地の近世墓石を次の五種類に大別した。

①尖頂舟形・円頂舟形（九基）

背面を丸く舟底状に整形した墓石。頂部を山型に尖らせたものが八基、頂部を円く仕上げたものが一基ある。先行研究において「尖頭舟形」「尖頂舟形」や「板碑形」などに分類される墓石は、正面上部に半円形の意匠を有することが特徴の一つと定義されている。龍拈寺の墓石では、正面に額縁を有する場合が多いものの、上部に半円形の意匠は見られない。本稿では、背面と頂部の形状から便宜的にこのように分類しておく。

今回調査した中で最古の元禄九年（一六九六）の墓石（No.37）をはじめ、紀年銘が古いものが多い。十八世紀後半にもみられるが、被葬者が幼児の小型墓石のみとなっていく。

② 尖頭方柱・尖頭方形（八基）

時代が下ると、舟形の墓石に変わって、四面に文字を刻むことが可能な方柱状の墓石が主流となっていく。なお、幅と奥行の長さがほぼ等しいものを方柱、幅の方が長いものを方形と分けた。

尖頭方柱・尖頭方形とは、墓石の頭部が四角錐（ピラミッド）状になっているもので、龍拈寺墓地では享保十五年（一七三〇）から延享元年（一七四四）の短期間に集中している。この時期は吉田藩主が本庄松平氏であった時代に合致する。その後しばらく姿を消したが、明治十年代以降に二基が建てられた。

③ 円頂方柱・円頂方形・円頂横型（九一基）

方柱状の墓石の上部を円く仕上げたもので、「櫛形」とも呼ばれる。方形・方柱に加え、高さよりも幅が長い横型が一基（No.140）ある。

龍拈寺墓地では享保年間に登場し、以後明治時代に至るまで継続して建てられた。数も他の形状に比べて圧倒的に多く、今回調査した墓石の六割以上を占める。

④ 平頂方柱・平頂方形（六基）

方柱状の墓石の上部を平たく仕上げたもので、「箱形」とも呼ばれる。龍拈寺墓地では本庄松平家中の墓石が二基確認される。その後は尖頭方柱・尖頭方形と同様に姿を消したが、明治二十年代以降に四基が建てられた。

⑤ 笠付方柱・笠付方形（三四基）

方柱状の墓石の上部に石製の屋根（笠）を乗せたもので、「笠塔婆」とも呼ばれる。

龍拈寺墓地では③と同様に享保年間に登場し、以後明治時代に至るまで継続して建てられている。被葬者は家老などの上級藩士家の者が大部分であり、階層差による墓石の形状の違いが確認できる。

このように、龍拈寺墓地の近世墓石には時代による形状の変遷がみられた。まとめると以下のようなようになる。十八世紀初頭までは①が主流であったが、十八世紀中頃の本庄松平氏時代には②～⑤のように様々な形状が登場した。次の大河内松平氏時代になると③と⑤に限定され、明治時代になると再び形状が多様化した。

なお、墓石本体（棹石）の下の台石については、原状から変わっているものが多いと思われるため、今回は調査対象に含めなかった。また、石材の分類については筆者の力量不足により断念した。

被葬者の内訳と所属

次に、龍拈寺墓地の近世墓石を被葬者別に分類する。近世を通じて墓制は個人墓・夫婦墓から家族墓へ変化したと言われるが、龍拈寺墓地では被葬者のほとんどが武士（吉田藩士）であるためか、一基あたりの被葬者数は少なく、近世期の「先祖代々」の家族墓は存在していない。

全体の六五パーセントにあたる九六基は被葬者が一人の個人墓である。その内訳は、各家の当主が二九基、当主の妻が二五基、それ以外の庶子などが一一基、幼児が三一基である。幼児の墓石は成人に比べて小型のものが多い。

夫婦墓は三二基である。No.109は被葬者が一人のため個人墓（当主）に分類したが、戒名が右に寄せて刻まれており、左側に妻の戒名を刻むことを想定していたと思われる。

夫婦以外で二人以上の戒名が刻まれているものは一八基あり、合葬墓と分類した。被葬者は親子や複数の幼児などで、死亡時期が数十年以上開いている例が半数を占める。No.56とNo.59は、もともと夫婦墓であった所へ、かなり時代が下ってから亡くなった人物を追葬している。

被葬者の所属が確認できたのは、推定も含めて一三六基あり、うち一三二基が吉田藩士とその家族である。

吉田藩主が小笠原氏時代（一六四五～九七）の墓石はNo.37の一基のみで、被葬者の竹田弥平が元禄九年（一六九六）に京都の二条城で亡くなったことが刻まれている。当時の藩主小笠原長重は京都所司代であり、主君に従って上京中に亡くなったのであろう。小笠原氏の在封期間を考えると他にも埋葬された藩士がいたはずだが確認できなかった。

在封期間が短い牧野氏時代（一七〇五～一二）の墓石は、No.25とNo.31の二基のみである。

本庄松平氏時代（一七二九～四九）の墓石は二四基で、その内幼児のものは一基しかない。夫婦墓であるNo.120は、妻の没年が宝暦八年（一七五八）である。本庄松平氏が浜松藩へ転封された後であったが、夫が眠る吉田の龍拈寺へ埋葬されたことがわかる。No.80の岡部（賀茂）政長は、足助へ旅行した紀行文『西三紀行』を著した人物。国学者の賀茂真淵は当初この政長の婿養子になっていた。

大河内松平氏時代前期（一七一二～二九）の墓石はNo.1・22・30の三基のみである。大河内松平氏時代後期（一七四九～）の墓石は、明治時代に亡くなった旧藩士とその家族も含めて一〇二基あった。

吉田藩士以外の墓石はわずかに四基である。吉田で亡くなった旅客が二基あり、No.28は桑名藩士（松下下総守家中）片岡与太夫の父、No.108は吉田城下札木町の太野屋で亡くなった武蔵金沢藩の領民である。残りの二基（No.145・No.147）は、東三河の陰陽道取締役を務めた神官安形貴林とその家族である。

大河内松平家中の諸家

大河内松平家時代の吉田藩士に関する文献資料としては、天明二年（一七八二）までの各家の当主を簡略に記した「藩臣家状」、役職ごとに重役の就任年をまとめた「従古代役人以上寄帳」や各種分限帳が残っているが、家ごとの由緒書や系図をまとめた資料は現存せず、各家に伝わった資料がなければ知ることができない。しかし、墓石に刻まれた文字から没年月日（活動時期）や親子関係などの情報が得られれば、文献資料の欠損を補うことができる。

ここでは、龍拈寺墓地に近世墓石が比較的多く残っている大河内松平家中の一部について、墓石から得られた情報も交えて紹介する。なお、安田家については安田六左衛門研究会が調査成果をまとめているため、本稿では割愛する。⁴⁾

(1) 西村家

前号で紹介したとおり、西村家は歴代当主が家老を務めた本家のほか、治太夫家と円治家の二つの分家があった。⁵⁾家紋は、表紋が本家は九曜、治太夫家は二重輪に九曜、円治家は丸に九曜、替紋は袋。

本家の近世墓石は一部を残して近年整理されたが、平成二八年に美術博物館が調査を行っており、写真や文字情報が記録として残っている（調査者 増山真一郎・鶴田知大）。治太夫家の近世墓石についても、一部が戦後に改葬された。そのため近世墓石の数は減少しているが、現在も十六基が残る。

西村為隆 本家五代。通称は庄次郎・次右衛門、初名は襲常、号は巴陵。役職は奏者番・用人・中老・家老など。石高は八〇〇石。宝暦七年七月十六日没。墓石は滅失。No.76は妻（六代為忠母）、No.71は娘（六代為忠妹）の墓石。母と兄為敬の墓石は滅失。

西村為忠 本家六代。通称は恭次郎・次右衛門。初名は正就（就正）。

年貢割付状の印影から、天明四年（一七八四）頃に為忠と改名したと思われる。役職は奏者番・用人・家老など。石高は七〇〇石五人扶持。文化二年六月十五日没。No.44は為忠の夫婦墓。嫡男造酒之進（養子）と娘の墓石は滅失。

西村為徳 本家七代。吉田藩士松井主馬親賢の次男で為忠の婿養子。通称は弥止治・久米之助・孫次右衛門、号は素山。役職は使番・者頭・中老・家老など。石高は七〇〇石五人扶持。嘉永六年七月十二日没。墓石はNo.43。No.66は早世した三男巳三郎の墓石。妻多米（養父為忠娘）と娘富の墓石は滅失。

西村為周 本家八代。通称は恭次郎・転・次右衛門、号は峯庵。役職は使番・用人・中老・年寄・勝手掛・家老など。石高は七〇〇石五人扶持。明治七年九月八日没。墓石（夫婦墓）は滅失。

浅井為政 治太夫家初代。本家五代為隆の弟。通称は孫次郎・治左衛門。役職は使番・者頭・用人・小姓頭など。石高は二〇〇石。安永五年十月二十九日没。墓石は改葬。No.89は早世した男子と女子の墓石で、天保十五年（一八四四）に孫の為則が建立した。

西村為迪 治太夫家二代。通称は猷吉・治太夫。役職は使番・者頭・奏者番・広間頭取など。石高は一五〇石。享和二年五月二十八日没。No.82は為迪の夫婦墓。No.83は病身により廃嫡した長男為知の墓石。

西村為則 治太夫家三代。通称は安次郎・常之進・治左衛門・治太夫。号は要山。役職は新居者頭・新居町奉行・勘定奉行・勝手掛・普請奉行・用人・小姓頭など。石高は一九〇石。文久三年八月十三日没。墓石は改葬。

西村為貞 治太夫家四代。通称は孫次郎・治太夫、維新後に治人。役職は町奉行・奥年寄など。石高は二二〇石。明治十年七月没。墓石は改葬。

西村為貴 治太夫家五代。掛川藩士甲賀孫太夫秀孝の三男で、為貞の婿養子。通称は左門。役職は中小姓・近習など。石高は二二〇石。

明治五年十一月二十二日没。No.88は為貴の夫婦墓。No.87は長女芳、No.84は家督を継いだ長男貫一郎、No.86は早世した次男の墓石。

西村敏為 円治家初代。治太夫家初代浅井為政の次男。通称は円治・伴右衛門。役職は馬廻・小名木沢役など。石高は五〇石。文政末から天保初年頃に江戸で没したと思われる。No.73は妻の墓石。

西村為憲 円治家二代。通称は円治。役職は中小姓・馬廻など。石高は五〇石。文久三年一月二日没。No.93は為憲の夫婦墓。No.102はよねと勝三の墓石で、為憲の長男為泰が建立した。よねは没年から為憲の娘と思われる。

(2) 深井家

大河内松平家初代松平信綱の母の実家である深井家は、関東の戦国武将長尾景春の子孫である。信綱の従兄弟にあたる深井藤右衛門吉成は信綱に仕え、家老を務めた。以降の当主も家老などの重役を務めた。家紋は左二つ巴下に一文字。近世墓石は七基が現存する。

深井久敬 三代。通称は丑之助・藤太夫・藤右衛門。役職は使番・者頭・奏者番・小姓頭・家老など。石高は六五〇石。宝暦三年十一月二十六日没。墓石はNo.75。

深井安敬 四代。通称は三之助・藤太夫、号は美清。役職は使番・奏者番・用人・中老・城代など。石高は六五〇石。享和三年三月十七日没。No.41は長女の墓石。No.117は吉田藩士柳本藤九郎篤敬に嫁いだ四女の墓石。柳本家の菩提寺は賢養院だが、早くに亡くなったためか実家の菩提寺へ葬られた。その後、安敬の五女が柳本篤敬の後妻になっている。

深井資貞 五代。吉田藩士安田六左衛門勝理の次男で安敬の婿養子。母は久敬の娘。通称は園治・藤兵衛・藤右衛門。役職は公用人・中老など。石高は六五〇石。寛政九年九月二十六日没。No.118は資貞の夫婦墓。No.114は娘の墓石。

深井資敬 六代。通称は弥十郎・藤右衛門、号は楽斎。役職は使番・者頭・奏者番・用人・家老など。石高は六五〇石。天保十四年六月廿日没。No.40は先妻の墓石。

深井資貴 七代。通称は悌三郎・静馬、初名は資生、維新後に諫雄、号は雅鴻・清華。役職は中老之通・年寄・家老など。石高は七〇〇石。写真家・画家としても名が知られる。明治二十一年九月二十三日没。墓石はNo.116。

(3) 松井家

松井家は松平信綱が大名に列した寛永四年(一六二七)から大河内松平家に仕える古参の重臣で、松井親房に始まる治部左衛門家と、親房の弟興治に始まる五郎右衛門家の二家があった。家紋は丸に三つ葉松笠。石高・役職ともに五郎右衛門家の方が上位であった。近世墓石は九基現存するが、治部左衛門家はNo.2の一基のみで、残り八基は五郎右衛門家である。

松井興和 五郎右衛門家三代。通称は源太郎・五郎大夫。役職は奏者番など。石高は七〇〇石。浜松で没する。No.22は母の墓石。

松井興孝 五郎右衛門家四代。吉田藩土石川作右衛門景長の四男で興和の養子。初名は石川権之進景雄。通称は友之進・郷左衛門。役職は者頭・用人・旗奉行など。石高は五〇〇石。寛政四年十二月十一日没。No.42は興孝の夫婦墓。正面を除く三面に墓碑銘が刻まれているが、風化が進んでいる。No.152は家督相続前に四五歳で亡くなった嫡男興行の夫婦墓。こちらも正面を除く三面に墓碑銘が刻まれている。

松井興忠 五郎右衛門家五代。興行の次男。通称は八太夫・五郎右衛門。役職は使番・者頭・奏者番・用人・中老・家老など。石高は五〇〇石。天保十年四月二十四日没。No.151は興忠の夫婦墓。

松井興意 五郎右衛門家六代。吉田藩土石川作右衛門景興の次男で興

忠の養子。初名は石川友之進景福・松井興徳。通称は岩之助・岩之進・五郎右衛門。役職は使番・奏者番・用人・小姓頭・中老・家老など。石高は五五〇石。嘉永七年閏七月六日没。No.148は興意の夫婦墓で、左面と背面に墓碑銘が刻まれている。No.23は長男小次郎興善、No.4は三男恭之助の墓石。

松井興讓 五郎右衛門家七代。興意の次男。通称は良之助・隆之助。郷左衛門、維新後に讓。役職は者頭・用人並・中老之通など。石高は五五〇石。維新後は渥美郡長を長く務めた。明治四十四年十一月八日没。No.149は興讓の夫婦墓。

(4) 遊佐家

吉田藩士の遊佐家は、遊佐重成に始まる源姓の系統と、遊佐高次に始まる平姓の系統の家があった。龍拈寺を檀那寺とするのは後者である。

高次系は代々善左衛門・平馬を称する本家のほか、応右衛門家・弥八郎家の二つの分家があった。家老を務めた本家二代の遊佐善左衛門高重は藩主松平信輝からの信頼が厚く、毎日二人きりで部屋に籠っては長時間会話していたことから、周囲からは「御家臣の様には見えず」と評されていた。高重の息子たちも重用され、兄弟三人が同時に家老を務めるという時期もあった。しかし、宝暦十年(一七六〇)に本家四代高理の嫡男小十郎が脱藩して以降は一時の勢いが衰え、家老が出ることも無くなった。家紋は本家が松皮菱、応右衛門家が五瓜に松皮菱。近世墓石は本家七基、応右衛門家六基、弥八郎家一基の十四基が残る。

遊佐高理 本家四代。通称は平馬、号は翁久。役職は奏者番並・用人・小姓頭・家老席など。石高は一五〇〇石、嫡男の脱藩後に七〇〇石に減祿。安永四年八月二十六日没。No.5は高理の夫婦墓。

遊佐高守 本家五代。応右衛門家初代高持の長男で高理の養子。通称は増次郎・善左衛門・平馬、初名は高世・高基。役職は者頭・奏者番・用人・小姓頭・城代など。石高は七二〇石。文化十三年十月七

日没。No.18は高守の墓石で、正面には松皮菱と三蝶円内十六葉菊の紋が刻まれている。後者は吉田藩主と同族の藩士大河内家の家紋と思われる。次代の高義の妻は大河内家出身だが、高守と大河内家の関係は不明。No.122は娘の墓石。

遊佐高義 本家六代。通称は久米之助・善右衛門・善作・善左衛門・平馬、初名は高德。役職は使番・者頭・奏者番・旗奉行など。石高は七二〇石。天保九年九月二十四日没。No.21は高義の夫婦墓で、墓石正面に刻まれた家紋は松皮菱のみ。

遊佐高英 本家七代。通称は七郎・善左衛門・平馬、初名は高堅。役職は者頭・奏者番など。石高は七二〇石。嘉永七年閏七月二十二日没。No.17は高英の夫婦墓。墓石正面には、遊佐家の家紋松皮菱と、妻の実家である吉田藩士岩上家の家紋三つ巴が刻まれている。娘多寿の墓石はNo.19で、高英の孫娘と合葬されている。

遊佐高厚 本家八代。通称は堅之丞・善左衛門。役職は者頭・奏者番など。石高は七二〇石。慶応四年四月二十一日没。No.16は高厚の夫婦墓。娘三千代の墓石はNo.19で、高厚の姉と合葬されている。

遊佐高持 応右衛門家初代。本家四代祝高の次男。通称は伝之助・東馬・翁右衛門、号は観月。役職は使番・者頭・鎗奉行・奏者番・用人など。石高は五〇〇石。江戸で没したため龍拈寺に墓石はない。

遊佐高鋪 応右衛門家二代。本家五代高守の実弟。通称は八百三郎・東馬。役職は者頭・奏者番・留守居・用人・広間頭取など。石高は二七〇石。文政三年八月八日没。No.6は高鋪の夫婦墓。No.13は吉田藩士石原津右衛門に嫁いだ高鋪の姉の墓石で、次代の高秀（高幹）が建てた。

遊佐高幹 応右衛門家三代。吉田藩士三浦将左衛門備武の三男で高鋪の養子。通称は孫之進・叔藏・東馬・応右衛門、初名は高秀。役職は使番・者頭・奏者番・用人など。石高は一九〇石。安政三年二月十七日没。No.10は高幹の夫婦墓。No.11は高幹の先妻である岡崎藩士

大谷三兵衛政泉の娘とその子増吉の親子墓。産後の肥立ちが悪く、母子ともに助からなかったと思われる。No.12は高幹の子誠之進の墓石。No.8は高幹の四男蓮之助の墓石で、高幹の孫と合葬されている。

遊佐千万喜 本家四代高理の三男高行から始まる弥八郎家の四代目。通称は弥七郎・昌之助、維新後に千万喜。役職は馬廻など。石高は六〇石。明治三十八年十一月五日没。No.27は千万喜の夫婦墓。

(5) 酒井家

小田原北条氏に仕えていた酒井綱重は、小田原落城後に松平定勝の家老となり、子孫は代々松平越中守家（桑名藩主など）の家老を務めた。綱重の長子綱直は大坂落城後に大坂まで見物に出かけ、落ち武者三人を切り殺して出奔した。寛永十年（一六三三）、綱直は甲州流軍学者の小幡景憲を介して松平信綱へ仕官し、島原・天草一揆にも従軍した。吉田藩士の酒井家は代々三十郎・角左衛門を称した。家紋は丸に剣片喰。近世墓石は十基が残る。

酒井辰直 五代。通称は官兵衛・三十郎、初名は綱豊。役職は使番・者頭・町郡奉行・用人など。石高は一五〇石。天明七年六月十五日没。No.69は辰直の夫婦墓。No.36は母の墓石。No.14は次男柳本辰義および三男三九郎とその妻の合葬墓。

酒井直方 六代。通称は直之進・角左衛門。役職は使番・者頭・町郡奉行・勝手掛など。石高は一五〇石。文政七年五月六日没。No.15は三人の合葬墓だが、その内二人は直方とその妻。

酒井直光 七代。掛川藩士北脇主馬の五男で直方の養子。通称は栄吉郎・角左衛門。役職は使番・者頭など。石高は一五〇石。安政二年七月二十三日没。No.7は直光の夫婦墓。No.38は長女、No.70は長男角之進、No.39は娘高の墓石。

酒井直重 八代。直光の次男。通称は直之進・伝次郎。役職は近習・馬廻など。石高は一五〇石。明治四年九月十七日没。墓石はNo.32。

家督は養子の銅三郎政韶が継いだ。No.9は政韶の長男作馬の墓石。

(6) 横浜家

横浜家は、豊臣秀長に仕えた横浜一庵（民部卿法印）の一族とされ、万治三年（一六六〇）に初代正勝が松平信綱へ仕官した。代々十郎右衛門・競を称した。三代正景は弓術の名手として知られ、日置流雪荷派の師範として多くの門人を育成した。正景以降の歴代当主も雪荷派の師範を受け継いだ。家紋は丸に四つ石。近世墓石は七基が残る。

横浜正景 三代。吉田藩士深井藤太夫良谷の次男で二代正貞の養子。

通称は競、号は有慶。役職は使番・者頭・鐘奉行・奏者番・旗奉行など。石高は一五〇石。明和二年五月八日没。墓所は高崎城下の善念寺で、野火止平林寺に石碑がある。No.1は次男辰之助の墓石。

横浜正義 四代。正景の四男。通称は与市・競、初名は正将・正相。

役職は使番・者頭・奏者番など。石高は一五〇石。天明三年十二月二十一日没。墓所は野火止平林寺。No.29は後妻の墓石。

横浜正順 五代。正義の甥で養子。通称は幸吉・与市・競。役職は使番・者頭など。石高は一五〇石。寛政二年六月二日没。墓所は野火止平林寺。

横浜正徳 六代。吉田藩士齋藤市左衛門高義の次男で正順の養子。通称は伝之進、初名は正往。役職は近習・馬廻。横浜家はもともと定府藩士であったが、正徳が病身のため小普請入りし、以降は吉田勝手となった。文化十四年八月十四日没。墓石はNo.53。

横浜正朝 七代。吉田藩士加藤又左衛門尚之の次男で正徳の養子。通称は栄吉・十郎右衛門・競、初名は正富。役職は使番・目付・者頭・新居者頭など。石高は一三〇石。文久元年六月二十日没。No.95は正朝の夫婦墓。No.94は五女、No.100は六女、No.98は七女の墓石。

正朝の後は有仲正路（正誠）が継いだ¹²が、安政三年八月に蟄居を命じられて弟高次郎正形が継いだ。有仲は維新後も弓術師範として活動し、

三遠各地の門人を訪ねてまわり、明治四十一年に額田町南大須（現岡崎市）において八十二歳で没した。¹³

おわりに

本稿では、龍拈寺墓地に残る近世墓石の悉皆調査の成果について報告した。現存する近世墓石は十八世紀以降の吉田藩士のもので殆どであるが、墓石の形状の変遷や個人墓・夫婦墓が多いという埋葬者の傾向を知ることができた。また、墓石に刻まれた文字からは、吉田藩士について文献資料の欠損を補う情報を得ることができた。

今後は、武士以外にも含めて豊橋市内に残る他の近世墓石について随時調査を進めたい。また、大河内松平家中の墓石は野火止平林寺をはじめ江戸・川越・古河・浜松などに点在していたはずだが、それらの所在確認や調査も課題としたい。なお、大正時代まで川越の蓮馨寺にあった大河内松平家中の加藤又左衛門上頼（元禄五年没）の墓石（夫婦墓）¹⁴は、近年鶴見大学へ寄贈され、大学敷地内で保存管理されている。

末尾ながら、本稿の作成にあたって墓地内での調査をご許可いただいた龍拈寺様をはじめ、ご協力いただいた安田六左衛門研究会・桑名市博物館の皆様にご礼申し上げます。

（豊橋市美術館学芸員）

註

(1) 近年刊行された近世墓石に関する研究書としては、関根達人『墓石が語る江戸時代』（吉川弘文館、二〇一八年）、同『石に刻まれた江戸時代』（吉川弘文館、二〇二〇年）、大名墓研究会編『近世大名墓の展開』（雄山閣、二〇二〇年）、池上悟『近世墓石論攷』（角川文化振興財団、二〇二二年）、坂詰秀一監修 松原典明編集『墓からみた近世社会』（雄山閣、二〇二一年）などがある。

- (2) 豊橋市図書館『豊橋市図書館所蔵拓本資料集・豊田珍比古氏旧蔵資料』
二〇一七年
- (3) 前掲註(2) 五四頁
- (4) 安田六左衛門研究会『三州吉田藩士安田六左衛門と安田家』(二〇二二年)
一八一～一九〇頁
- (5) 久住祐一郎「吉田藩士西村治太夫家文書について」(『豊橋市美術博物館研
究紀要』二十一号、二〇二一年)
- (6) 前掲註(2) 二二頁では西村為周墓としているが、西村為忠墓の誤り。
- (7) 前掲註(2) 五六頁
- (8) 前掲註(2) 五五頁
- (9) 染矢清剛「足齋漫抄 七十七(製錦集 三)」豊橋市中央図書館蔵
- (10) 「酒井家譜(一)」桑名市博物館蔵
- (11) 前掲註(10) によれば、直方第三八(三九郎のことか)の悴で、他家の養
子になっていたが離縁となり、直方の跡目を継いだとされる。
- (12) 豊橋市史編集委員会編『西村次右衛門日記(補遺)・三浦深右衛門日記』
(一九九四年) 四八四頁
- (13) 高柳静雄『三河弓術風土記下』二〇〇四年、一三九頁
- (14) 星野玲子「鶴見大学文化財学科所蔵 近世墓石の科学的調査」(『鶴見大学
紀要』第五十四号第四部、二〇一七年)

背面	家紋	形状	本体法量 (cm)			被葬者	所属等
			高	幅	奥行		
		尖頂舟形	44.0	20.7	13.0	個人(幼児)	大河内松平
		円頂方形	49.0	23.0	15.0	個人(幼児)	大河内松平
	()	円頂方形	55.0	22.2	15.8	個人(その他)	大河内松平
		円頂方形	57.0	25.0	17.8	個人(幼児)	大河内松平
		笠付方形	78.0	31.0	24.0	夫婦	大河内松平
	五瓜に松皮菱	円頂方形	70.0	28.5	21.0	夫婦	大河内松平
		円頂方形	59.0	28.0	15.0	夫婦	大河内松平
	五瓜に松皮菱	円頂方形	62.0	26.0	15.3	合葬	大河内松平
		円頂方形	50.8	23.8	16.8	個人(その他)	大河内松平
	五瓜に松皮菱	円頂方形	70.0	29.0	21.5	夫婦	大河内松平
	五瓜に松皮菱	円頂方形	64.5	31.5	18.0	合葬	大河内松平
	五瓜に松皮菱	円頂方形	57.5	22.7	14.8	個人(幼児)	大河内松平
		円頂方形	57.5	25.5	14.8	個人(当主妻)	大河内松平
清 天保十四癸卯年九月六日		笠付方形	55.5	29.0	25.0	合葬	大河内松平
善 明治九丙子年七月上七日 太 嘉永二己酉年四月四日 積 文政七甲申年五月六日	丸に剣片喰	笠付方形	64.0	28.5	25.5	合葬	大河内松平
	松皮菱 丸に剣片喰	笠付方形	79.0	31.5	25.0	夫婦	大河内松平
	松皮菱 三つ巴	笠付方形	78.5	31.0	24.0	夫婦	大河内松平
	松皮菱 三蝶円内十六葉菊	笠付方形	78.5	31.2	23.7	個人(当主)	大河内松平
	松皮菱	笠付方形	54.0	24.2	20.5	合葬	大河内松平
	松皮菱	笠付方形	78.5	30.8	24.5	夫婦	大河内松平
	()	笠付方形	86.0	31.5	24.8	個人(当主妻)	大河内松平
	丸に三つ葉松笠	円頂方形	61.8	25.0	17.8	個人(幼児)	大河内松平
	丸に抱き丁子	円頂方形	72.0	35.7	24.6	個人(当主)	大河内松平
		尖頂舟形	85.0	33.0	18.0	個人(当主)	牧野
	()	円頂方形	65.5	28.5	18.8	個人(当主)	大河内松平
		円頂方形	54.0	26.5	15.0	夫婦	大河内松平
		尖頂舟形	71.0	29.5	14.0	個人(当主)	旅客
	丸に四つ石	円頂方形	60.5	23.5	19.5	個人(当主妻)	大河内松平
		尖頂舟形	78.0	27.5	16.0	個人(当主妻)	大河内松平カ

龍拈寺近世墓標調査リスト

番号	正面	左面	右面
1	□ 幻消童子 幽口		
2	早世 秋演童子		
3	石礮院璞岩成金居士	安永六丁酉年十二月廿四日	
4	雲晴印月禪童子		嘉永二己酉年五月四日 卒年三歳俗名恭之助 松井五郎右衛門興惠三男
5	大乘院殿覺誉円定翁久居士 泰鏡院殿円誉梅窓香春大姉	明和三丙戌年二月二十三日 遊佐善左衛門平高世建之	安永四乙未八月廿六日
6	東漸院禪岩良機居士 突成院禪貞妙機大姉	遊佐東馬平高鋪墓 孝子遊佐叔藏高秀建之	文政三年庚辰八月八日
7	行雲院英山良雄居士 伝心院速成自空大姉	孝子酒井直重建之	行 安政二乙年七月廿三日 伝 明治二十年三月十一日
8	厚德院忠道義溪居士 高照院種月靈苗童子	遊佐応右衛門四男 同蓮之助墓 兄遊佐東馬平高門建之	文久二壬戌年七月十三日 明治廿七年十月九日遊佐中墓
9	俊成院英心義雄居士	俗名酒井作馬墓 酒井綱三郎源政詔建之	明治七甲戌年四月八日
10	高幹院陽雲水哉居士 高林院智山妙栄大姉	遊佐応右衛門高幹墓 孝子遊佐応次郎高門建之	幹 安政三丙辰年二月十七日
11	芳心院紅室貞葉大姉 義仙禪孩子	大谷三兵衛政臬女 遊佐東馬高幹妻 同人男 俗名増吉	天保四歳次癸巳 十月十有三日 同月十有六日
12	誠敬院至山幼忠童子	天保十三寅年七月十一日卒	遊佐応右衛門高幹 嗣子遊佐誠之進墓
13	梅霖院靈藥貞寿大姉	石原津右衛門妻 遊佐叔藏平高秀建之	文政三年庚辰五月十八日
14	雄功院傑心良英居士 徳成院桃林幽溪居士 清蓮院白雲妙道大姉	天保十一庚子年十一月十日 酒井三十郎源辰直三男 俗名酒井三九郎	天明六丙午年九月十九日 酒井三十郎源辰直二男 俗名柳本雄之助越智辰義
15	積善院孝菴純心居士 太清院瑚室璣光大姉 善叟院積室真功大姉	孝子酒井栄吉郎源直光 建之	俗名酒井角左衛門源直方
16	高厚院殿跼山準躡居士 精琢院殿鍊軛磨鏡大姉	精 明治三年庚午八月廿八日 高厚妻	慶応四年戊辰四月廿一日 行年四十一歳遊佐善左衛門平高厚墓 孝子遊佐真之助平高明建之
17	高英院殿天桂良樹居士 仙勝院殿貞顔永然大姉	遊佐平馬平高英墓 遊佐善左衛門平高厚建之	高 嘉永七甲寅年閏七月廿二日
18	大禪院殿璞翁玄玉居士	孝子 遊佐善左衛門平高德建之	文化十三丙子年十月七日
19	妙光院觀幻智成禪童女 花含玉英禪童女	元治二丑年二月二十一日 遊佐善左衛門平高厚娘 行年六歳俗名三千代	天保五午年四月十七日 遊佐善左衛門平高堅娘 行年十歳俗名多寿
21	最勝院殿大雲一翁居士 慧心院殿成光弁智大姉	孝子 遊佐平馬高堅建之	最 天保九戊戌年九月二十四日卒 慧 嘉永五壬子年七月十六日卒
22	靈松院殿月窓寂英大姉	享保十乙巳年霜月廿九日	松井五郎太夫興和老母
23	興善院碩心幼学禪童子	松井岩之進源興徳嫡子 松井小次郎源興善墓	天保十己亥年七月二十五日卒
24	豊隆院松巖道栄居士	村松豊之進正賀墓 孝子村松永二郎正徳建之	慶応四戊辰年六月十八日
25	正徳元辛卯歳 円寂光冷詠月居士覺位 九月二十四日	施主 加藤与右衛門頼久	
26	海嶽院源徹了淵居士	俗名池田三順 孝子池田良順	宝暦八年戊寅七月十日
27	高顯院玄道大機居士 高智院玄室妙機大姉		明治三十八年十一月五日没 俗名 遊佐千万喜 行年五十八歳
28	元禄十三庚辰歳 鉄性院透眼了閑居士 十一月廿九日俗名片岡与太夫父	桑名家中	
29	月窓院昌室寿桂大姉	横浜競藤原正義後妻 行年八十四歳	文化十三丙子年十一月十五日卒 孝孫 横浜伝之進藤原正徳建之
30	享保元丙申年 長春院久屋貞昌大姉 九月[]		

背面	家紋	形状	本体法量 (cm)			被葬者	所属等
			高	幅	奥行		
		尖頂舟形	88.5	32.5	18.0	個人(当主)	牧野カ
		円頂方形	57.5	26.0	16.5	個人(当主)	大河内松平
		尖頭方形	67.0	27.5	21.5	夫婦	本庄松平
		円頂方形	50.0	23.0	16.0	合葬	
		円頂舟形	64.5	28.5	16.0	個人(当主)	
		笠付方形	59.0	29.7	25.5	個人(当主妻)	大河内松平
		尖頂舟形	63.5	31.0	16.0	個人(当主)	小笠原
		円頂方形	40.0	19.0	12.5	個人(幼児)	大河内松平
		円頂方形	50.0	21.5	15.5	個人(幼児)	大河内松平
	()	笠付方形	57.5	26.0	22.0	個人(当主妻)	大河内松平
	二つ巴	円頂方形	55.0	25.0	19.5	個人(幼児)	大河内松平
(墓碑銘)		笠付方形	62.0	31.0	27.5	夫婦	大河内松平
	九曜袋	笠付方柱	96.5	33.5	33.3	個人(当主)	大河内松平
孝子 西村久米之助為徳建焉	九曜袋	笠付方柱	104.0	34.0	33.8	夫婦	大河内松平
	三つ巴 三つ星	円頂方形	69.5	28.0	20.3	個人(当主妻)	大河内松平
	鞠挟 (抜け九曜)	円頂方形	65.5	26.5	15.7	合葬	大河内松平
		円頂方形	46.0	22.2	17.5	個人(幼児)	大河内松平
		笠付方形	54.5	23.5	17.3	個人(当主)	本庄松平
		円頂方形	47.0	24.0	21.0	個人(その他)	本庄松平
		尖頂舟形	46.0	21.5	12.0	個人(幼児)	大河内松平
	()	円頂方形	62.0	24.3	18.5	個人(当主妻)	本庄松平
		笠付方形	53.0	22.8	20.0	個人(当主妻)	本庄松平
	丸に四つ石	円頂方形	60.5	26.3	20.0	個人(当主)	大河内松平
	丸に木瓜	円頂方形	61.5	24.5	21.0	個人(当主妻)	本庄松平
		円頂方形	55.0	23.0	18.5	個人(当主)	本庄松平
遥 宝曆十二壬午年三月六日 大 宝曆八戊寅年五月朔日		笠付方形	64.5	27.0	22.5	合葬	大河内松平
		平頂方形	55.0	24.3	21.0	個人(当主妻)	本庄松平
		円頂方形	48.0	23.0	18.0	夫婦	大河内松平
普 宝曆七丁丑年正月十二日 真 元文五庚申年十二月六日		円頂方形	61.0	26.0	22.0	合葬	大河内松平
		円頂方形	54.5	23.0	18.0	個人(当主妻)	本庄松平
		円頂方形	60.5	25.3	20.5	不明	

番号	正面	左面	右面
31	宝永五戊子年 □寿院節重良忠居士靈位 □月八日	施主 鳥井[]	
32	知新院直源凌雲居士	酒井伝次郎源直重墓 孝子酒井鋼三郎源政韶建之	明治四年辛未九月十七日
33	鉄性院心源了肝居士 円明院常寂了□大姉		俗名林佐左衛門保広 延享元甲子四月十一日
34	貞心良実大姉 潭底弧月孩女	戊午七月四日	明治十七年七月廿四日
35	円寂 空口淨口信士□□		
36	了性院竹窓貞節大姉	安永七年戊戌正月六日	孝子 酒井三十郎源辰直建之
37	元禄九丙子年 賀昌院忠巖宗節居士 □月十日	俗名竹田弥平 京二条 卒	
38	蓮露禪童女	酒井角左衛門直光女	天保六乙未年九月廿八日
39	観幻了智禪童女	酒井直之進妹 俗名高 行年十三歳	文久三年癸亥五月十四日
40	遷光院殿春心妙幽大姉	[寛政九丁巳]年正月九日 深井弥十郎資敬妻	
41	円寂菊顔妙香大姉	宝曆七丁丑歳九月十二日	深井藤太夫平安敬娘
42	興孝院殿止山良忠居士 操心院殿貞室養純大姉	(墓碑銘)	(墓碑銘)
43	純孝院殿篤心素山居士	嘉永六癸丑年七月十二日卒	俗名西村孫次右衛門菅原為徳 嗣子西村転菅原為周建之
44	聖仙院殿寿岳円量居士 実相院殿蓮室妙香大姉	文化十二乙亥年五月二十三日 西村次右衛門為忠妻	文化二乙丑年六月十五日 俗名西村次右衛門為忠
45	慈照院実窓貞眼大姉	宝曆四甲戌歳六月十三日	岩上角右衛門藤原英俊口(妻カ)
46	相寿貞円大姉 苗安異秀童女 凋残素心童子 芳姿禪童女	芳 天保十二辛丑年三月十六日 北原昌光建之	相 文政十丁亥年三月二日 苗 寛政十二庚申年九月三日 凋 文政四辛巳年十一月三日
47	蓮質幻紅禪童女	寛政六年甲寅六月廿一日	岩上角右衛門俊教女
48	蔵海院円如宗融居士		
49	真正院宝月良印居士		寛保[]日
50	宝曆十庚辰年 □□ 玉音禪童女 九月二十八日		[関屋弥]一左衛門高[雄女]
51	専照院玉室提印大姉	河原政著妻 小笠原氏女□子	元文三戊午年三月二十六日
52	照空院清月賢涼大姉		元文三戊午歳六月廿七日
53	不伝院正徳自念居士	文化十四丁丑年八月十四日卒	横浜伝之進藤原正徳墓 孝子横浜十郎右衛門藤原正富 建之
54	自照院真光円珠大姉	大泉正純妻	享保二十乙卯年正月初四日
55	節巖院雄峯宗英居士		
56	大智院円室自鏡居士 遥雲院孤岳妙峯大姉	俗名渡辺小一左衛門源招 孝子渡辺右忠源募建之	明治六年癸酉十一月十日 慶放院昌巖寿栄大姉
57	靈性院実顔栄真大姉		[]十月十一日
58	黙翁院高外靈閣居士 円鏡院義溪明勝大姉	孝子 山本左兵衛源高寛建之	黙 弘化四丁未年二月六日 円 天保九戊戌年五月九日
59	真高院富屋全峰居士 普光院月山貞白大姉	義溪明勝信女 山本左兵衛寛[] 天保九戊戌年五月九日 []	山本左兵衛備侯父母
60	智照院環中妙機大姉	岡部安右衛門[]	延享二乙丑年三月七日
61			

背面	家紋	形状	本体法量 (cm)			被葬者	所属等
			高	幅	奥行		
	中平角に松皮菱	円頂方形	43.5	20.3	11.5	個人(幼児)	大河内松平
		円頂方形	68.0	26.8	18.0	合葬	大河内松平
徳 明治七年甲戌八月十三日	丸に三つ盛り菊 丸に橘	円頂方形	57.0	27.5	24.0	合葬	大河内松平
	丸に桔梗	円頂方形	60.0	26.2	17.0	合葬	大河内松平
	九曜	笠付方柱	58.0	24.8	23.5	個人(幼児)	大河内松平
		円頂方形	50.0	22.3	16.0	個人(当主妻)	本庄松平
		円頂方形	55.0	22.7	17.5	夫婦	本庄松平
		笠付方形	64.0	30.5	26.0	夫婦	大河内松平
		円頂方形	45.5	22.4	18.5	個人(幼児)	大河内松平
		笠付方形	55.5	23.0	19.5	個人(その他)	大河内松平
	丸に桔梗	円頂方形	68.5	25.5	21.0	個人(当主)	本庄松平
	丸に九曜	円頂方形	50.5	26.0	14.8	個人(当主妻)	大河内松平
	重ね組井桁	円頂方形	64.0	31.0	18.0	個人(当主妻)	大河内松平
		笠付方形	63.5	26.0	22.5	個人(当主)	大河内松平
		笠付方形	63.0	26.0	24.0	個人(当主妻)	大河内松平
	三つ盛木瓜	円頂方形	53.5	24.0	19.5	個人(当主)	本庄松平
		笠付方形	64.5	27.0	22.5	夫婦	大河内松平
小谷氏直熙妻		笠付方形	57.5	23.7	19.7	個人(当主妻)	本庄松平
		円頂方形	71.5	24.5	22.5	個人(当主)	本庄松平
		尖頭方形	65.5	26.0	21.5	個人(当主)	本庄松平
	二重輪に九曜 木瓜に山の字	円頂方柱	71.0	30.5	29.0	夫婦	大河内松平
	二重輪に九曜	円頂方形	63.5	27.5	23.8	個人(その他)	大河内松平
	二重輪に九曜	平頂方柱	74.0	30.4	30.0	個人(当主)	大河内松平
	二重輪に九曜	円頂方形	52.5	22.0	15.4	個人(幼児)	大河内松平
	袋	円頂方形	63.0	27.8	21.5	個人(その他)	大河内松平
	二重輪に九曜 袋	円頂方柱	71.5	30.4	29.0	夫婦	大河内松平
	()	円頂方形	51.0	26.0	23.0	合葬	大河内松平

番号	正面	左面	右面
62	玉質椶露禪童女	関屋高慰娘 俗名力子 関屋高重建之	明治四辛未年五月廿二日
63	[]翁随仙居士 []墓 []墓	山本十平治[]	柯 慶応二丙寅年七月十八日 一 明治三十[] 口 同十七年五月廿二日 豊 同二十八年九月十九日台湾基隆死亡
64	安聖院楽雄芳禪居士 栖鶴院琴瑟貞松大姉 徳誠院政敏道隣居士	因栖鶴遺言分埋骨於東京玉林 寺旧墳墓 明治二年己巳六月十三日没	
65	定心院理屋貞順信女 楽書院蘭溪楽所居士 霜月院了詮琴遊大姉	楽 齒毛 今埋於東京永久寺旧墓 霜 白骨 男 村并有右衛門源惟勤建之	定 天保十三年壬寅九月廿一日卒 楽 明治三年庚午三月十六日卒 霜 明治二年己巳十一月廿九日卒
66	霜現院容顔自光禪童子	天保四癸巳年十一月十一日	西村孫次右衛門為徳三男 俗名西村巳三郎
67	盛久院繁栄理昌大姉		
68	当觀院一峯宗義居士 玄珠院朗耀自天大姉		元文四己未十一月二十日
69	聖心院諦観了義居士 彩雲院光外智紋大姉	俗名酒井三十郎辰直 同苗角左衛門直方建之	聖 天明七年丁未六月十二日 彩 文政十年丁亥五月十八日
70	稚文幻容童子	酒井角左衛門直光男 俗名酒井角之進	天保九戊戌年七月廿四日
71	心蟬院娟蛾眉月大姉	西村次右衛門源(??)就正妹	安永三甲午天九月八日
72	安心院得峯玄髓居士	河原氏源政富	元文三戊午年九月二十六日
73	慈光院玉相妙眼大姉	孝子西村円治為憲建之	西村伴右衛門為敏妻 弘化四丁未年三月二十三日卒
74	蓮性院鮮顔自香大姉		天保十一辛丑年六月十六日 水野記一郎定寧後妻
75	正統院殿節嚴道忠居士	深井藤右衛門平久敬 深井藤太夫平安敬立之	宝曆三癸酉年十一月廿六日
76	微妙院正輪貞法大姉	西村恭次良就正建焉	宝曆十四甲申五月六日
77	居巖永安信士塔	小泉[]	于時元文五庚申九月二日
78	円寂 清流院圭山露白居士 円寂 照空院清月知凉大姉	渡辺露白源達	[] 俗名渡辺[]
79	春盛院華顔英光大姉		享保十八癸丑年三月五日
80	了信院養岩政長居士	俗名岡部安右衛門賀茂政長	寛保元辛酉歲八月十三日
81	普照院瓊月孤琳居士	葛山[]	寛保元辛酉年十月二十二日
82	奏待院招安義賢居士 栄林院連香妙枝大姉	奏 享和二壬戌年五月二十八日卒 俗名 西村治太夫菅原為迪 栄 天保十五甲辰年四月二日卒 同人妻 享年九十歲 高崎侯藩士山岡官太景澄女	孝子西村次左衛門菅原為則建焉
83	春暎院永安禪光居士	西村次左衛門為則建焉	天保六年乙未二月十七日卒 俗名 西村庄作為知 西村次左衛門為則兄
84	正眼院智光泰然居士	西村ひさ建之	明治三十壬寅五年九月廿七日卒 俗名 西村貫一郎
86	蟬松凉吟童子	西村左門為貴二男 俗名西村口口 行年二才	明治四辛未年 六月二十七日卒
87	法蓮院華郁妙芳大姉	西村治人孫 古為貴嫡女俗名芳 西村貫一郎建之	明治九年丙子七月二十二日卒
88	橋流院勇水不流居士 素琴院松操貞音大姉	明治五壬申年十一月廿二日卒 西村為貴墓 嗣子西村貫一郎建之	文久二壬戌年七月十日卒 西村孫次郎為貞娘 同左門為貴妻 行年二十六歲
89	楓凋禪童子 寂幻禪童女	天保十五[] 西村次左衛門為則[]	楓 宝曆十年庚辰九月四日 寂 淺井次左衛門為政口男 宝曆六年丙子四月十一日 同人娘

背面	家紋	形状	本体法量 (cm)			被葬者	所属等
			高	幅	奥行		
	袋	平頂方柱	44.0	18.4	18.0	個人(幼児)	大河内松平
(墓碑銘)		笠付方柱	67.0	33.5	33.5	個人(当主)	大河内松平
	丸に釘抜	尖頭方形	72.5	25.8	21.0	個人(当主)	本庄松平
	丸に九曜	円頂方形	51.5	26.3	15.5	夫婦	大河内松平
	丸に四つ石	円頂方形	57.0	25.8	16.0	個人(その他)	大河内松平
	丸に四つ石	円頂方形	64.0	30.0	18.5	夫婦	大河内松平
	()	円頂方形	41.0	18.5	14.0	個人(幼児)	
		円頂方形	43.5	22.0	13.0	個人(幼児)	
	丸に四つ石	円頂方形	52.5	24.8	14.5	個人(幼児)	大河内松平
		円頂方形	42.5	22.0	11.0	個人(幼児)	大河内松平
	丸に四つ石	円頂方形	35.5	18.5	10.3	個人(幼児)	大河内松平
		円頂方形	32.0	16.0	12.5	不明	
		円頂方形	51.0	23.0	16.5	合葬	大河内松平
		円頂方形	40.0	21.7	12.5	個人(幼児)	大河内松平
		円頂方形	43.0	21.0	14.8	個人(幼児)	大河内松平
		円頂方形	41.0	19.5	16.5	個人(幼児)	
		尖頭方形	59.5	23.0	21.0	夫婦	
		円頂方形	45.5	21.2	13.8	個人(幼児)	大河内松平
		円頂方形	72.0	31.5	17.0	個人(その他)	旅客
		円頂方形	54.0	25.0	13.5	個人(当主)	大河内松平
	亀甲に立ち沢瀉	円頂方形	54.0	24.6	14.5	合葬	大河内松平
		円頂方形	51.0	21.0	17.5	個人(幼児)	本庄松平
		円頂方形	52.5	24.2	18.5	夫婦	
	()	尖頭方形	58.0	23.2	16.0	個人(当主妻)	本庄松平
	二つ巴	円頂方形	53.5	23.3	17.0	個人(幼児)	大河内松平
	三つ盛木瓜	平頂方形	71.0	26.0	21.0	個人(当主)	本庄松平
		平頂方柱	75.5	31.2	30.4	個人(当主)	大河内松平
		笠付方形	61.0	26.0	22.0	個人(当主妻)	大河内松平
	二つ巴	笠付方形	60.5	30.5	22.5	夫婦	大河内松平

番号	正面	左面	右面
90	明芳治善童女	明治三十九年七月廿九日卒 俗名 西村治	
91	閑屋一勲墓	(墓碑銘)	(墓碑銘)
92	両重院有山覚無居士	本間六右衛門源之孝	享保十五庚戌年正月四日
93	鶴松院鳳元丹山居士 龜鏡院遊真池泉大姉	西村円次口為 孝子勝之進為泰建之	
94	奇顔妙容大姉	横浜競正朝五女 横浜高次郎正形 建之	安政六未十月二十一日
95	峻巖院正朝義哲居士 真鏡院恩光妙智大姉	孝子 横浜有仲正誠 横浜高次郎正形	峻 文久元年辛酉六月二十日卒 真 安政六己未十月十三日
96	春光理天禪童子	[]子	[]巳年二月二十四日口
97	妙春童女		
98	桂芳素輪禪童女	横浜競正富七女 俗名寿能六才	文政十一戊子年八月二日卒
99	智円童女	安田万吉二女	
100	(拓本採取不可)	文政三庚辰年三月三日	横浜正富六女
101	(拓本採取不可)		[]年 四月二日卒
102	幻如春相童女 皆基成空禪童子	明治廿三年九月建之 西村為泰	幻 安政四丁巳三月三日 俗名よね 皆 明治廿二年十月二日 勝三
103	影幻禪孩女	水野氏	元治二乙丑年三月十日
104	雲冲玉鳳童女	田原氏	文久三癸亥年十月四日
105	口光[]		明治五壬申十二月[]
106	本誓院願海領得居士 蓮台院自法妙然大姉	明治四十四年五月十七日	明治十一年寅六月廿一日 水野氏
107	明治三庚午年 白幻光玉孩子 八月十六日	村雨吉太郎息 口口墓	
108	法巖府尺居士位	天保八丁酉五月初六日 米倉丹後守内[] 生国相州大住郡堀山下村 露木仁[]	当宿札木町 大野屋伝右衛門宅二而 []
109	慈明院廓堂良然居士	春田林蔵長守之墓 春田孫吉源長富	慈 安政五戊午年六月十五日
110	天保十三壬寅年六月九日 大空院法岩宗輝居士 三字智春禪童女 文政四辛巳年二月廿五日	春田林蔵元長娘墓	春田孫兵衛 元長墓誌
111	口口緑水禪童女		
112	明治五壬申年 安養基品信士 五月九日 安政二乙卯年 全室妙照信女 十二月八日		
113	光雲院春応祐霞大姉		湊[]
114	芙山智蓉禪童女		
115	玉汝軒三近墓	口口氏日下部真輝行年八十口	元文二丁巳年五月十九日
116	深井清華墓	機外院殿深井清華居士 明治廿一年九月廿三日卒 嗣子 深井末葉女建之	
117	妙証院鏡室智円大姉	柳本藤九郎妻之墓	安永二癸巳年五月廿四日
118	洞巖院殿岫外奇雲居士 安性院殿得玄妙心大姉	洞 寛政九年丁巳九月廿六日 安 天保四年癸巳正月十九日	深井藤右衛門資貞之墓 孝子深井弥十郎資敬建

背面	家紋	形状	本体法量 (cm)			被葬者	所属等
			高	幅	奥行		
	中平角に松皮菱	笠付方形	80.0	31.2	27.2	合葬	大河内松平
	丸に剣花菱	笠付方形	70.5	30.0	22.0	夫婦	本庄松平
	鞠挟 (抜け九曜)	円頂方形	57.5	29.0	15.0	個人(当主)	大河内松平
	松皮菱	円頂方柱	64.0	24.4	24.0	個人(その他)	大河内松平
	九曜	円頂方形	49.0	23.0	19.0	個人(当主妻)	本庄松平
	丸に剣花菱	尖頭方形	67.5	24.5	20.0	個人(当主妻)	本庄松平
	丸に剣花菱	尖頭方形	82.5	30.0	24.7	個人(その他)	本庄松平
	鞠挟 (抜け九曜)	円頂方形	63.5	29.5	21.0	個人(その他)	大河内松平
		円頂方形	51.2	20.5	15.5	夫婦	
		円頂方形	46.0	21.5	14.5	個人(幼児)	大河内松平
明治廿七年甲午一月□□ 明治十三年庚辰五月□□		尖頭方柱	71.0	18.5	18.5	夫婦	大河内松平
	右一つ細巴	円頂方形	68.5	28.4	21.0	夫婦	大河内松平
	右一つ細巴	円頂方形	69.5	28.5	20.8	個人(当主)	大河内松平
	右一つ細巴	円頂方形	67.5	27.5	21.5	個人(当主)	大河内松平
		円頂方形	69.0	27.0	22.0	個人(当主妻)	大河内松平
		尖頂舟形	45.0	22.5	14.0	個人(幼児)	大河内松平
	右一つ細巴	円頂方形	69.0	27.5	21.0	合葬	大河内松平
	右一つ細巴	円頂方形	64.0	28.2	21.5	個人(当主妻)	大河内松平
	右一つ細巴	円頂方形	69.5	28.5	21.0	夫婦	大河内松平
	右一つ細巴	円頂方形	51.0	22.5	15.3	個人(幼児)	大河内松平
	右一つ巴	円頂方形	67.5	27.5	21.5	個人(当主)	大河内松平
	右一つ細巴	円頂横型	46.5	55.0	22.0	夫婦	大河内松平
	右一つ細巴	円頂方形	69.5	27.7	21.0	個人(当主妻)	大河内松平
	右一つ細巴	円頂方形	70.5	28.0	21.5	個人(当主妻)	大河内松平
		平頂方形	43.5	25.0	13.5	個人(幼児)	
		円頂方形	53.0	23.0	13.0	合葬	神官
		円頂方形	31.5	19.0	10.0	個人(幼児)	
(墓碑銘)	() 薦	笠付方柱	70.0	33.5	33.7	個人(当主)	神官

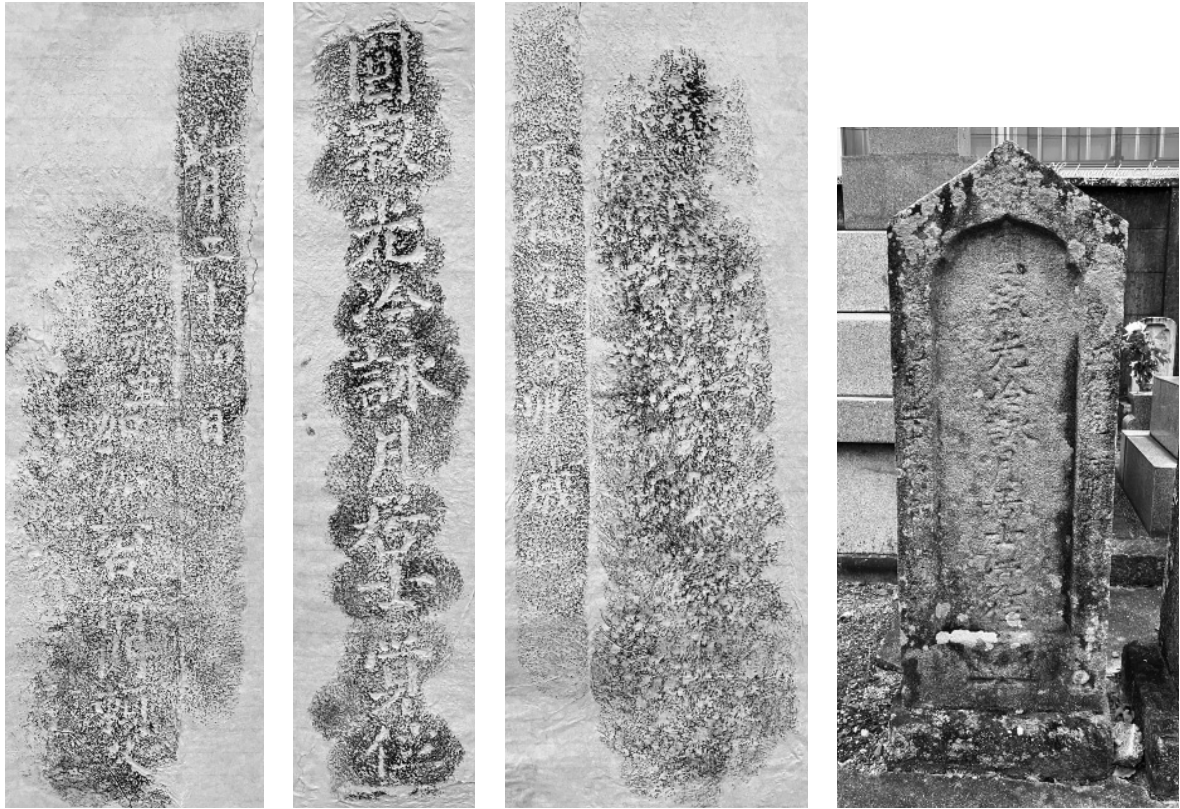
番号	正面	左面	右面
119	幽谷院薪巖流水居士 雪岳大光信士 徳法良道信女	明治五壬申年六月五日行年三十七歳 関屋高慰墓 関屋高重建之	大正四年一月十四日 俗名藤作 大正四年十月十七日 俗名正江
120	全超院大用義統居士 妙玄院大統智戒大姉	維時享保二十歳次乙卯四月二十九日	宝曆八戌寅天十二月八日 俗名 藤田猶右衛門弘庸
121	顕嶽蹄勇居士	俗名北原栄吉源重光 行年廿歳 北原滝三郎源任重建之	元治元甲子年十月十九日
122	環中院智玉妙機大姉	遊佐平馬高基女	寛政四年壬子五月廿日
123	享保二十乙卯曆 浄光院玉輪栄機大姉 二月五日		林氏[]
124	円照院心月慧鏡大姉	藤田氏女瑠以 施主堀越氏	維時享保十九歳次甲寅十一月二十一日
125	嶮徳院傑山良英居士位	俗名羽山与茂八忠之	維時享保十九歳次甲寅六月二十四日
126	廓心院大安亮然居士	俗名 北原一学源光好墓	文政十一戊子年九月二十一日卒
127	昌口院□□□□居士 []大姉		明治三十一年五月五日建之
128	花顔美容大姉	提髮氏	明治七年五月七日
129	正覚院殿自教明義居士 正法院殿自室妙覚大姉	孝子 安田英建之	俗名 安田貫一
130	理徳院殿耀月文照居士 靈位 法寿院殿観光妙道大姉	嘉永六癸丑年八月七日 明治四辛未年十二月十九日	俗名 安田源勝政六左衛門 孝子 安田勝愛泰次郎建之
131	晴雲院殿紅林月照居士靈位	俗名 安田源勝巳八百吉 孝子 安田勝景貴一建之	明治四辛未年九月十五日
132	諦観院殿慈教浄盛居士	文政六癸未年九月晦日 俗名 安田義勝竹翁 孝子 安田源勝政万吉建之	
133	本智院殿真覚妙賢大姉	安田義勝六左衛門建之	文化六年己巳四月廿三日卒
134	空知童女	安田氏	
135	観智院殿成賢妙光大姉 真実院殿沢与貞有大姉	安田八百吉源勝忠建之	明治四辛未年七月九日 明治廿二丑年三月三日
136	到源院殿広観妙円大姉		天保十三壬寅年十二月廿九日 孝子 安田六左衛門源勝政 建之
137	真覚院殿寒月諦照居士 真相院殿実心祖貞大姉	明治二年己巳十一月廿八日 俗名安田六左衛門源勝愛 孝子 安田八百吉勝忠建之	真相明治廿五壬寅年十一月十五日
138	紅岳妙凉童女	嘉永六癸丑年八月二十三日	安田勝愛建之
139	秋紅院殿観月清空居士	俗名 安田源勝能六左衛門 孝子 安田源義勝八百吉建之	寛政九丁巳年九月五日
140	宝曆五乙亥年 浄泉院殿道儀諦源居士 十二月廿六日 天明七丁未年 松寿院殿佳月妙清大姉 九月十六日		
141	実相院殿心慶妙安大姉	天保七年丙申十月朔日卒享年二十四俗名栄 安田十三郎源勝愛妻 孝子 安田八百之丞源勝巳建之	
143	覚勝院殿真諦妙鏡大姉	安田八百吉源勝巳妻	慶応元乙丑年七月十三日
144	真相妙容禅童女	酒井常次郎建之	明治廿四年八月八日 俗名酒井きみよ女
145	安形貴林妻朝女墓 同 孫美也備女墓	諱 玉軫童女 明治四辛未二月朔日	諱 鶴乘朝陽大姉 明治三庚午八月十一日
146	□□妙口童女		
147	陰陽神官安形讚岐前司橘貴林之墓	(墓碑銘)	(墓碑銘)

背面	家紋	形状	本体法量 (cm)			被葬者	所属等
			高	幅	奥行		
(墓碑銘)	丸に三つ葉松笠 違い釘抜	笠付方柱	71.0	34.0	33.7	夫婦	大河内松平
	丸に三つ葉松笠 髷	笠付方柱	71.0	34.0	33.5	夫婦	大河内松平
慶 天保十五年甲辰六月十五日		笠付方柱	62.5	33.5	33.5	夫婦	大河内松平
(墓碑銘)	丸に三つ葉松笠 ()	笠付方形	62.0	31.0	27.0	夫婦	大河内松平
		笠付方柱				個人(当主妻)	大河内松平
		笠付方柱				個人(その他)	大河内松平
		笠付方柱				個人(当主妻)	大河内松平
		笠付方柱				個人(当主)	大河内松平
		笠付方柱				個人(幼児)	大河内松平
		笠付方柱				個人(その他)	大河内松平
		笠付方柱				個人(その他)	大河内松平
		笠付方柱				個人(当主妻)	大河内松平
		平頂方柱				夫婦	大河内松平

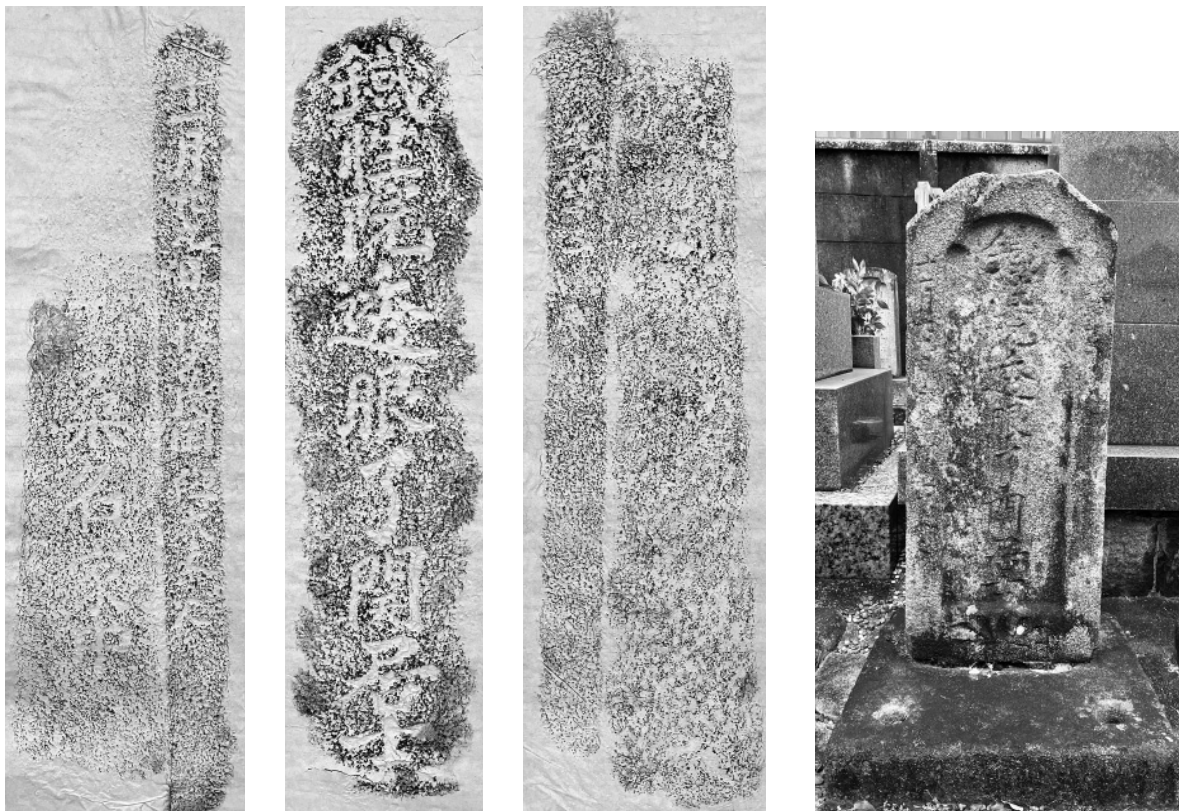
番号	正面	左面	右面
148	興惠院殿奇巖彝臨居士 清香院殿桂室凌雲大姉	(墓碑銘)	興惠 嘉永七年歲次甲寅閏七月六日卒 松井五郎右衛門源興惠墓 孝子松井隆之助源興議建之
149	蟠龍院殿松嶽凌雲居士 春曉院殿天真慈光大姉		蟠龍院殿 明治四十四年十一月八日没 春曉院殿 明治三十一年一月十九日卒 長男 松井琢磨建之
151	興忠院殿義法賢隆居士 慶寿院殿松雲貞操大姉		天保十年歲次己亥四月二十四日卒 松井五郎右衛門源興忠墓 孝子 松井岩之進源興德建之
152	興行院殿綠応玄起居士 勸章院殿善室妙心大姉	(墓碑銘)	(墓碑銘)
参考	光顔院殿澄月智鏡大姉 覚位	西村氏室	維時正徳六歲 丙申閏二月三日
参考	過春院殿夢覚亮幻居士	俗名 西村蔵人為敬	享保五歲舎庚子三月二十一日
参考	法性院殿妙浄悟心大姉 覚位	西村氏老母	享保六歲舎辛丑八月十五日
参考	政鏡院殿正眼の中居士 覚位	孝子 西村恭次郎就正建之	宝曆七丁丑年七月十六日
参考	普門院殿即応幼現禪童子	西村次右衛門為忠嫡 俗名 西村造酒之進	寛政十一己未年八月四日
参考	広修院殿智方妙優大姉	天保七丙申年正月十八日	西村孫次右衛門為徳嫡女 俗名 富
参考	円照院殿実如貞相大姉	天保十四癸卯年八月六日 西村次右衛門菅原為忠娘 同氏孫次右衛門為徳建焉	
参考	量智院殿誠諦為聴大姉	西村為忠娘 同氏為徳室 嫡子 西村峯庵 嫡孫 同氏澹建焉	明治五年歲次壬辰秋九月上八日卒
参考	西村峯庵 同妻満寿墓	嗣子 西村澹建之	明治七年九月八日卒 明治廿二年十月二十三日卒

※旧字体・異体字は常用漢字に直した。

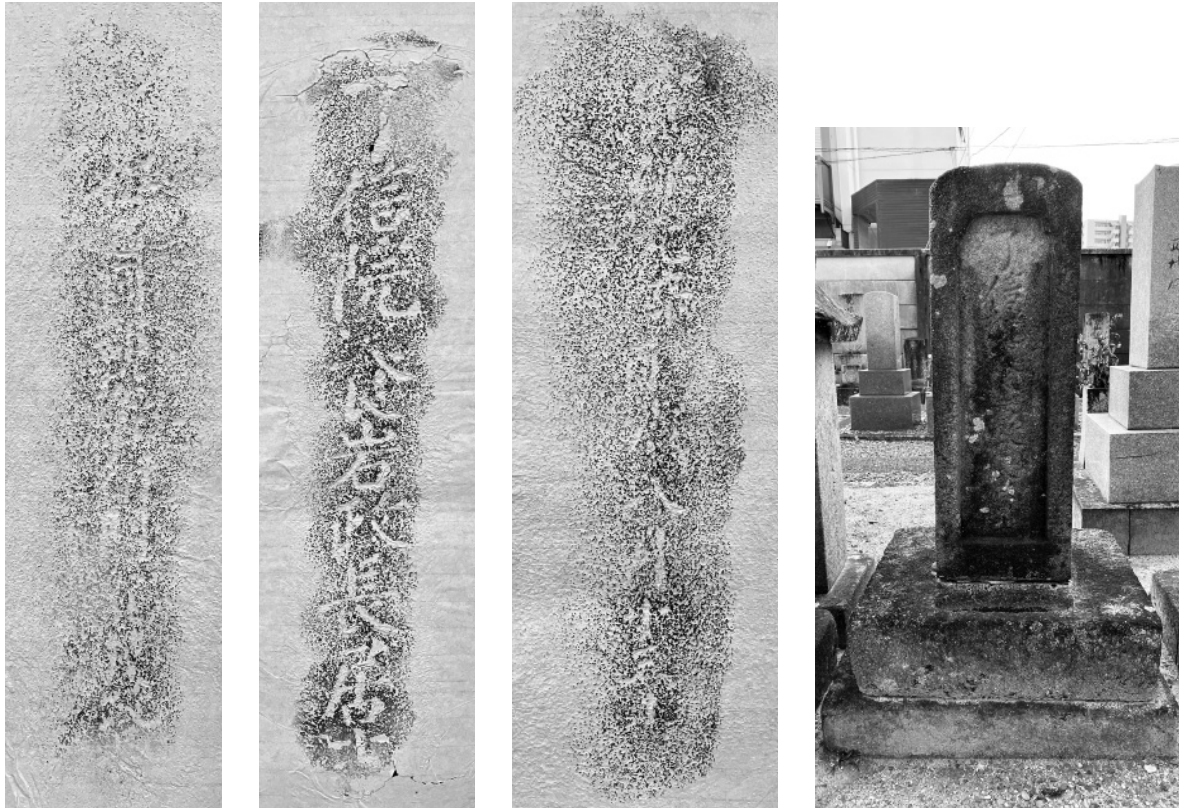
※「参考」は平成28年に調査された吉田藩士西村家の墓石（現存せず）。



No. 25 「円寂光冷詠月居士覺位」墓標の拓本、写真



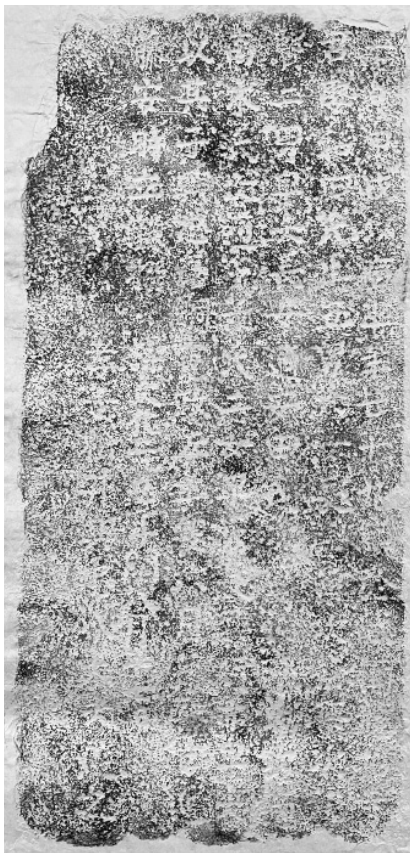
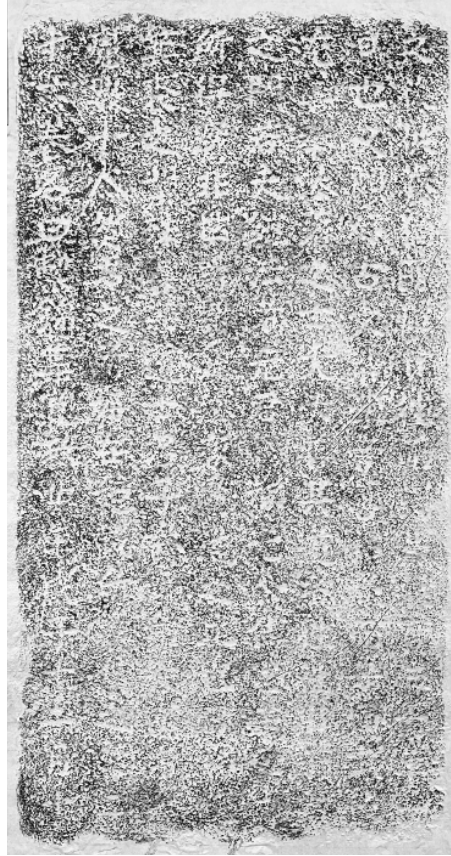
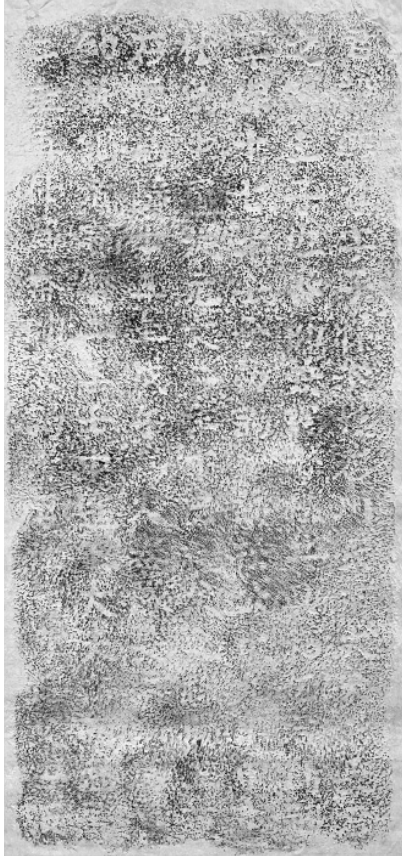
No. 28 「鉄性院透眼了関居士」墓標の拓本、写真



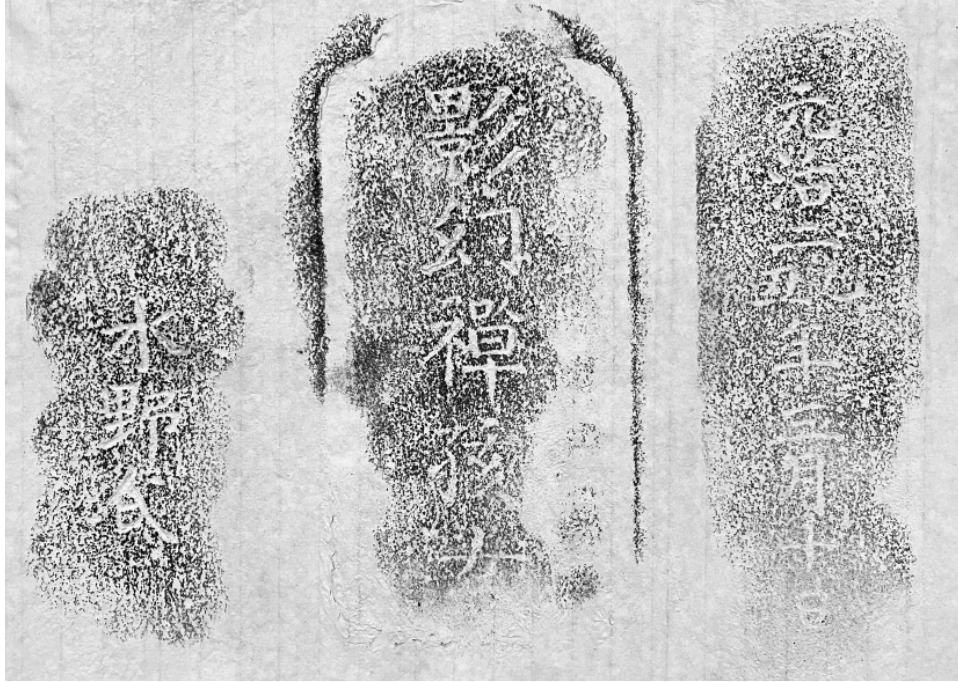
No. 80 「了信院養岩政長居士（岡部政長）」墓標の拓本、写真



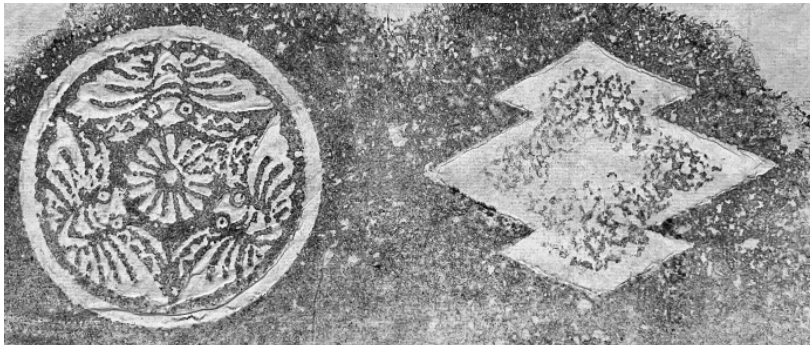
No. 7 「行雲院英山良雄居士・伝心院速成自空大姉（酒井直光夫妻）」墓標の拓本、写真



No. 42 「興孝院殿止山良忠居士・操心院殿貞室養純大姉
(松井興孝夫妻)」墓標の拓本、写真



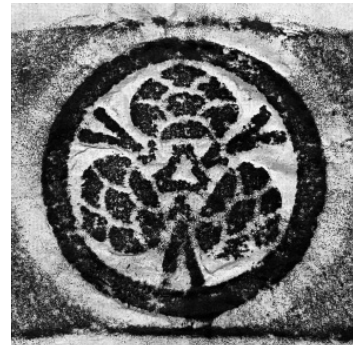
幼児の墓標拓本 (No. 103 「影幻禪女」)



三蝶円内十六葉菊 (大河内家)

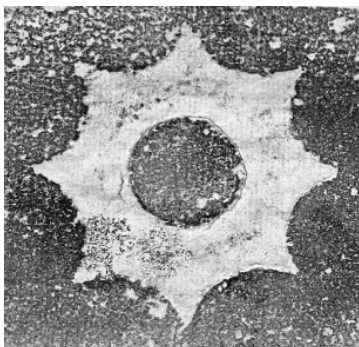
松皮菱 (遊佐家)

No. 18



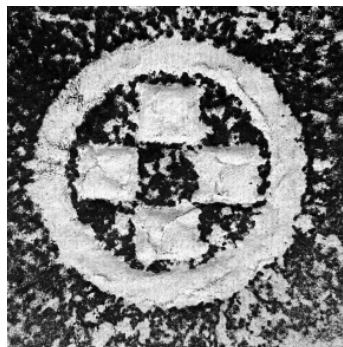
丸に三つ葉松笠 (松井家)

No. 23



鞠挟 (北原家)

No. 126



丸に四つ石 (横浜家)

No. 29



丸に抱き丁子 (村松家)

No. 24

大河内松平家中の墓標に刻まれた家紋の拓本